

第41回大会総括

再生医療のサプライチェーン

—診断から治療まで—



FIRM
代表理事・会長
戸田 雄三
Yuzo Toda

第41回未来医学研究会大会を2018年5月26日に富士フイルム株式会社 東京本社(東京ミッドタウン内)にて開催致しました。企業の会場を利用した初の試みでしたが、無事終了することができ、講演していただいた先生方、大会運営に関わって頂いたスタッフの皆様、そしてご参加いただいた方々に心より感謝申し上げます。

わが国における再生医療の現状を鑑みますと、関連研究分野では世界をリードしているものの、実用化・産業化という点においてはいまだ途上であると言わざるを得ません。2013年11月、薬事法の改正により医薬品医療機器等法が成立し、新たに『再生医療等製品』というカテゴリーができるとともに、条件及び期限付き承認制度が始まりました。また再生医療等安全性確保法によって、企業等が細胞培養加工受託を行える環境が整いました。その結果、世界で初めてiPS細胞を用いた移植手術が行われるなど、着実に成果はあがってまいりました。わが国が本気で再生医療の実用化に取り組むことを内外に示したといえます。

このような経緯をふまえ、今回の大会テーマを「再生医療のサプライチェーン」と致しました。再生医療を発展させるために必要な産学官連携は

もちろんのこと、企業間においても、それぞれの強みを生かした連携をいかに構築すべきか、ともに考えるよい機会となったのではと自負しております。疾患で苦しんでおられる多くの患者様により早く、より安全に再生医療を届けるため、すべての関係者が一体となって取り組むべきことを確認できたのではないのでしょうか。

本大会を振り返ると、特別講演の大林先生(日本経済新聞社)には「人生100年! 欲張りに生きる?」と題して、高齢化による日本の現状と未来がどのように変化していくべきかを、課題を提言しながら解説して頂きました。再生医療・未来医療によって人々が健康長寿を手にしたとき、いかに楽しみの多い将来を手にいれるか。それには個人個人の意思が重要であることをあらためて認識できたすばらしい機会でした。

招待講演では、鮫島先生(テルモ株式会社)、片山先生(株式会社セルシード)、井家先生(株式会社ジャパン・ティッシュ・エンジニアリング)、前川先生(富士フイルム株式会社)に、再生医療の産業化の現状をより具体的に捉えるべくご講演頂きました。各社の再生医療等製品の開発経験と各製品のバリューチェーンから、再生医療の産業

化にむけた課題がよく理解できたと思います。先生方には日本の再生医療産業を牽引していく企業のリーダーとして、益々のご活躍を期待致します。

講演して頂いた先生方の発表内容については本誌の紙面で語って頂くとして、本大会のご講演の中で再生医療・未来医療に対する情熱的なアプローチが述べられていたように思います。イノベーションを起こすには、先生方の情熱こそが道を開くキーファクターであると考えています。引き続き素晴らしいご研究の成果ならびにその実用化を期待しています。

さて、本大会では東京女子医科大学・早稲田大学連携先端生命研究教育施設(TWIns)における医工連携を担う人材育成拠点の取り組みが経済産

業大臣賞を受賞された報告を清水先生から頂きました。東京女子医科大学のバイオメディカル・カリキュラム(BMC)は、約半世紀前からスタートしており、企業を中心としたその卒業生はすでに数千人規模と伺っております。未来を切り開くイノベーションな医療技術を生み出すには、各個人が成し遂げたい世界を構想し、いかに行動するかにかかっております。その実現にむけて、日々の研鑽を忘れてはなりません。

最後になりましたが、本大会の開催にあたり、大変多くの御尽力を賜りました先端生命医学研究所の先生方、及びスタッフの方々に厚く御礼を申し上げます。

略 歴

1973年	現・富士フイルム(株)入社
1994~2004年	Fuji Photo Film B.V.研究所長(オランダ)
2004年	執行役員 ヘルスケア事業部長 ヘルスケア事業(化粧品・サプリ)医薬品事業を立ち上げる
2011年	一般社団法人再生医療イノベーションフォーラム(FIRM)を発足 代表理事・会長に就任
2013~2018年	内閣官房 健康・医療戦略室参与 拜命
2018年6月	富士フイルム株式会社 取締役副社長・CTO (最高技術責任者) 退任